

# 「もしも」に備えた 医療・介護・健康の拠点

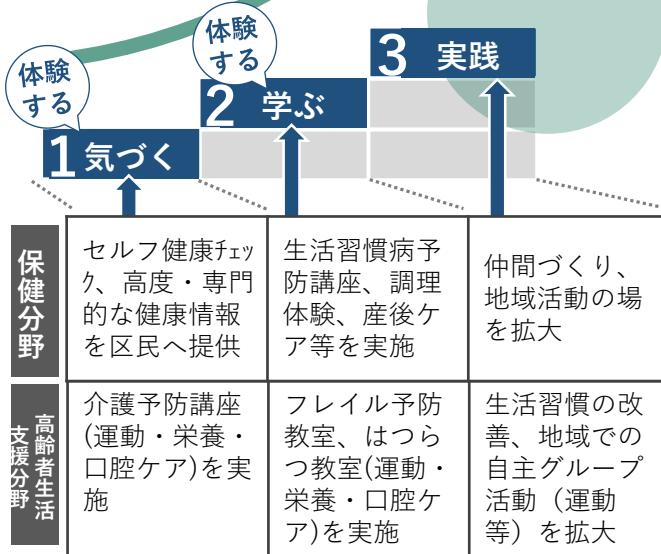
## 健康寿命を支える

ポイント I

### 3ステップで健康寿命の延伸に貢献する

「気づく」「学ぶ・体験」「実践」の3ステップで、**区民の健康意識を高める**とともに、周囲の人や地域の健康を支える**担い手としてのヘルスポランティア**を育てる。

江北のまちから  
足立区全域へ展開



～画像はイメージ～

保健センター、医療・介護連携拠点、休日応急診療所、子育てサロン等が、「健康」をキーワードに連携し、区民や地域団体が集う「まちの居場所」をつくる。

### 設計コンセプト

- 1 日常の「健康」を支えつつ、非日常の「もしも」に備える 拠点づくり
- 2 ひとりでもみんなでも 心地よい居場所づくり
- 3 小規模な講座から大規模なイベントまで 多様な使い方ができる空間づくり

## 災害・感染症に備える

ポイント III

### 地震に耐え、浸水をしのぎ、感染症から区民の命を守る

- 保健所のバックアップ施設 (第2の保健所)
  - ・ 非常時でも72時間施設の必要機能を維持させる**非常用発電機を設置**
  - ・ 災害、感染症発生時の緊急時にも対応可能な**電話・LAN・Wi-Fi設備等インフラ**の充実
- 地震や浸水による災害対策
  - 災害時に保健活動、要支援者保護が可能な施設として設計(下図「新施設の災害対策」参照)
- フレキシブルに対応できる諸室
  - ・ 事務室等の**フリーアドレス化**により、緊急対応時の人数増員も対応可能
  - ・ 可動間仕切りで区分可能とした大会議室の設置
- ICTを活用した緊急時対応の強化
  - ICT活用によるペーパーレス化で、保健センター間、関係部署との**迅速な情報共有**、緊急時対応等の区民サービスを向上
- 休日応急診療所
  - 足立区医師会、区内2次救急医療機関と連携し、感染症流行時など**非常時にも対応できる休日応急診療所(次ページIII-1参照)**を設置

### 「足立区の新たな感染症対策の考え方」



ポイント II

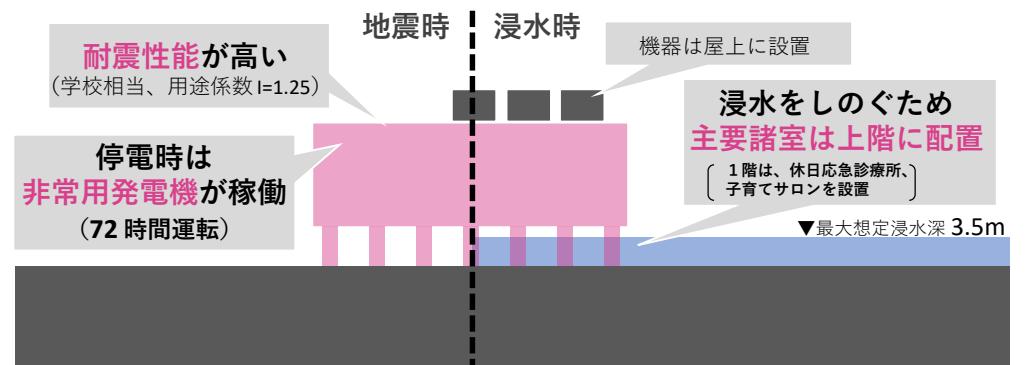
### 一体的支援の拠点を新設し切れ目のない支援を強化する

- 医療・介護連携の強化
  - 「**医療・介護情報・研修センター**」を設置し、多職種連携研修やICTの活用を推進する。
- 高齢者への支援強化
  - 「**高齢者あんしん支援チーム**」により、認知症や虐待など支援を必要としている高齢者へ、より速やかに支援を届ける。
- 安心な在宅医療体制の構築
  - 「**在宅医療休日当番医制度**」を創設し、在宅医療に協力いただける医療機関を増やす。

## 高齢者の生活を支える



### 「新施設の災害対策」



方向性と取組み

視点	現状（課題）	課題解決に向けた取組みの方向性	想定している具体的な取組み	
			事業内容 ↓ 新規★／ 拡充◎	実施場所
I 健康寿命を支える	<b>1 健康行動につながる動機付けが不十分</b> (1)座学形式による講座のため、受講した区民の主体的・継続的行動につながる健康意識を持たせづらい	<b>1 「気づく」「学ぶ・体験」から「実践」へ</b> (1)最新情報の発信及び自分の身体を「測って、知る」ことで動機付けを促す (2)実践型、体験型のプログラムにより自分にもできるという自己効力感を高め、継続を促す (3)周囲や地域の健康を支える担い手として育成したヘルスポランテアが、健康づくり活動を実践する場を地域全体に広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 健康チェック機器やボランティア、NPOの方達の交流を行えるサロン機能設置</li> <li>★ ② 女子医大足立医療センターから提供される高度、専門的な健康情報の展示</li> <li>○ ③ 食育やフレイル予防に資する実習など体験に重点を置いた栄養教室や口腔ケア教室を開催</li> <li>★ ④ 健診情報を把握できる母子アプリを検討し、ニーズにあった情報を発信</li> <li>○ ⑤ 通いの場（住区、ふれあいサロンなど）等を使ったグループ活動の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1階多目的広場</li> <li>● 2階栄養実習室、歯科相談室</li> </ul>
	<b>2 相談窓口のワンストップ化が不十分</b> (1)子育て世代が利用できる相談機関は多いが、機関ごとの個別対応によるため、切れ目のない支援の更なる強化が必要	<b>2 更なる連携・協働の強化</b> (1)「健康」「包括的」「一体的連携」をキーワードとした、切れ目のない支援の強化とともに、子育て世代に限定しない多世代の女性支援も行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 妊娠、出産、予防接種等の健康情報に特化したコンシェルジュを配置</li> <li>★ ② 女子医大足立医療センターを含めた女性専門外来やヘルスケア外来と連携した女性健康相談を実施</li> <li>○ ③ デイサービス型の産後ケアを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2階事務室</li> <li>● 3階子育て支援室</li> </ul>
	<b>3 認知症や軽度要介護認定者の増加</b> (1)高齢化に伴い認知症や要介護度が軽度の高齢者が増加している	<b>3 区民の認知症・介護予防知識の向上</b> (1)認知症・介護予防教室の参加者を増やし、自ら認知症や介護の予防を行える区民を増やしていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ① 区民の健康知識の向上や地域活動のリーダー育成のために、認知症予防教室や介護予防教室を、センターで通年でモデル実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3階研修室</li> </ul>
II 高齢者の生活を支える	<b>1 医療・介護関係者間の連携不足</b> (1)医療機関と介護サービス事業者等の連携（相互理解）が不十分である	<b>1 医療・介護連携の強化</b> (1)研修の見直しやICTの活用により医療・介護の連携を強化していく	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 「医療・介護情報・研修センター」を新設</li> <li>★ ② 人材確保のための支援機能の新設</li> <li>○ ③ 在宅療養支援窓口の機能拡充</li> <li>○ ④ 医療・介護関係者向けSNS「メディカルケアステーション」の活用促進</li> <li>○ ⑤ 医療・介護連携にかかる情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3階大研修室（3室に分割利用可）</li> </ul>
	<b>2 支援を必要とする高齢者の増加</b> (1)高齢化に伴い認知症や虐待など支援を必要とする高齢者が増加している	<b>2 高齢者への支援の強化</b> (1)認知症や虐待など支援を必要としている高齢者がより速やかに支援を受けられるようにする	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 「高齢者あんしん支援チーム」による一体的支援の拠点新設（高齢援護担当、基幹地域包括支援センター、権利擁護センターあだち）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3階事務室</li> </ul>
	<b>3 在宅医療需要の増加</b> (1)高齢化に伴い在宅医療需要が増加している	<b>3 安心な在宅医療体制の構築</b> (1)足立区医師会と連携し、在宅医療に協力いただける医療機関を増やしていく	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 「在宅医療休日当番医制度」を創設</li> <li>○ ② 区内の医療機関のネットワーク化（病診連携の推進）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 3階事務室</li> </ul>
III 災害・感染症に備える	<b>1 災害時等の保健所機能の維持が困難</b> (1)現足立保健所及び現江北保健センターの設備では地震・浸水・感染症発生時に保健所・保健センター機能を保つことができない	<b>1 保健所のバックアップ施設</b> (1)保健医療活動支援拠点として第2の保健所に位置づけ、災害時等に保健センター機能を維持し、保健所をバックアップする	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 地震・浸水・感染症発生時における事業継続性を高めるため、国が推奨している72時間機能を維持させる非常用発電機を設置</li> <li>○ ② 1階は浸水をしのぐため必要最低限の機能のみとし、主要諸室を2階以上に配置</li> <li>○ ③ 災害発生時等の対応が行えるだけの電話・LAN・Wi-Fi設備等を確保し、自然換気と機械換気を併用した室内環境</li> <li>★ ④ 診察室や動線を明確にゾーニングした休日応急診療所で発熱外来を実施し、重症者を2次救急医療機関等へつなぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 屋上</li> <li>● 1階休日応急診療所</li> <li>● 施設全体</li> </ul>
	<b>2 保健所・保健センターのスペース不足</b> (1)諸室が手狭なため、応援人員の配置や緊急避難スペースの確保が困難	<b>2 フレキシブルに対応できる諸室</b> (1)十分な執務室、緊急避難スペースを確保する	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① フリーアドレス化により、職員同士の連携のしやすさ、緊急対応時の人数増員も対応可能</li> <li>○ ② 地震・浸水時のDHEATの活動拠点、配慮が必要な区民の緊急避難場所として、多目的に活用できる広いスペースを確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2階事務室</li> <li>● 2階集団指導室、3階大研修室</li> </ul>
	<b>3 緊急時対応のBCPが脆弱</b> (1)紙媒体による管理により、センター間の情報共有、緊急時の初動対応が鈍い	<b>3 ICTを活用した緊急時対応の強化</b> (1)ICT活用によるペーパーレス化により、迅速な情報共有、緊急時対応等の区民サービスを向上させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ① 母子カードの電子化を始めとした各保健センター等事業のICT化による保健予防活動の充実</li> <li>★ ② オンライン申請や相談、予約方法、web会議等の新しい手段を模索し、時間・場所にとらわれない新たな区民サービスを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2階各諸室</li> </ul>

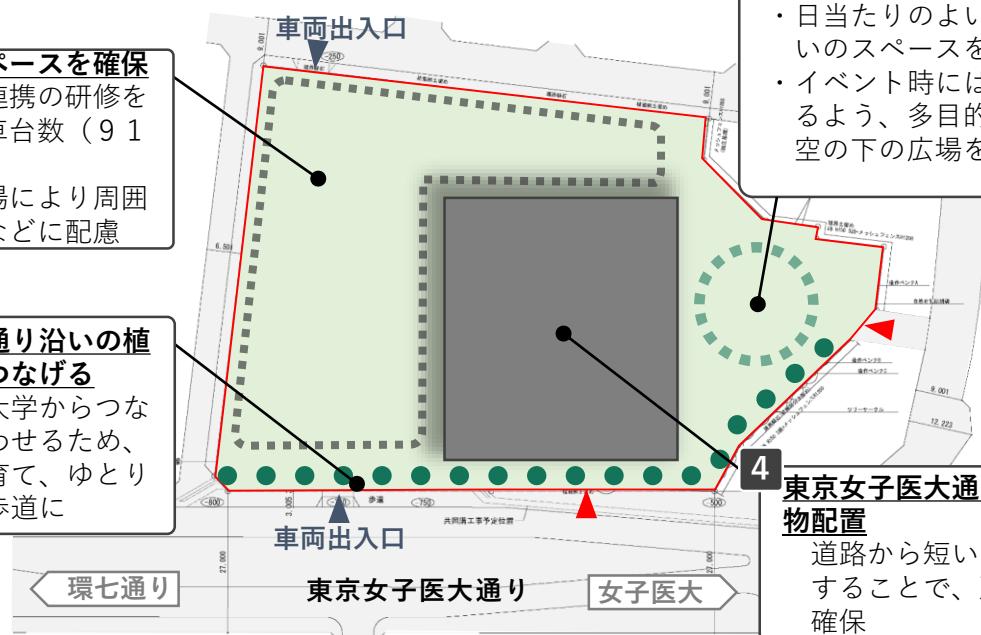
# 建築計画の概要

**1 十分な駐車スペースを確保**

- 医療・介護連携の研修を想定した駐車台数（91台）を確保
- 平置き駐車場により周囲への圧迫感などに配慮

**2 東京女子医大通り沿いの植樹帯を緑道へつなげる**

東京女子医科大学からつながる緑道にあわせるため、樹木を大きく育て、ゆとりある緑豊かな歩道に



建物配置イメージ

**3 広場**

- 日当たりのよい南側に、憩いのスペースを確保
- イベント時には一体的に使えるよう、多目的～屋根の下～空の下の広場を整備

**4 東京女子医大通りに沿った建物配置**

道路から短いアプローチとすることで、建物視認性を確保

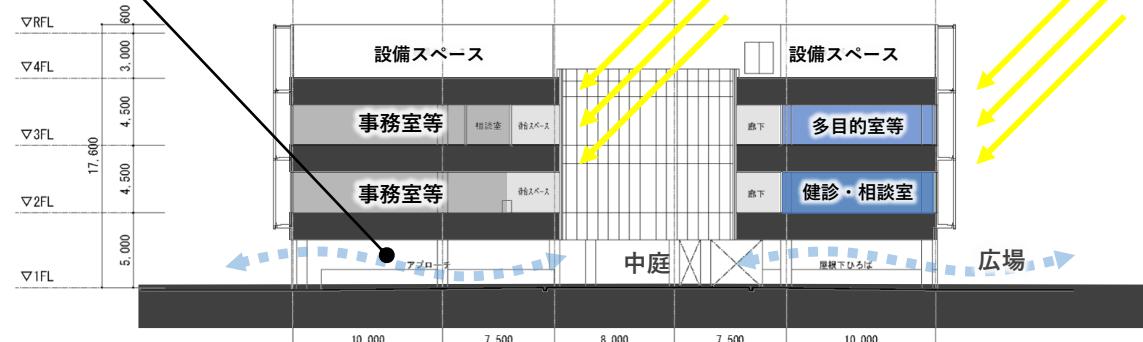
## 主な機能（階構成）

- 1階** 休日応急診療所、子育てサロン、多目的広場
- 2階** 江北保健センター
- 3階** 医療・介護連携拠点
- 屋上** 倉庫、設備スペース

**ポイントⅢ 関連**

**5**

- 浸水時を考慮して、1階は吹抜け空間を基本に計画
- 地震時の耐震性も確保

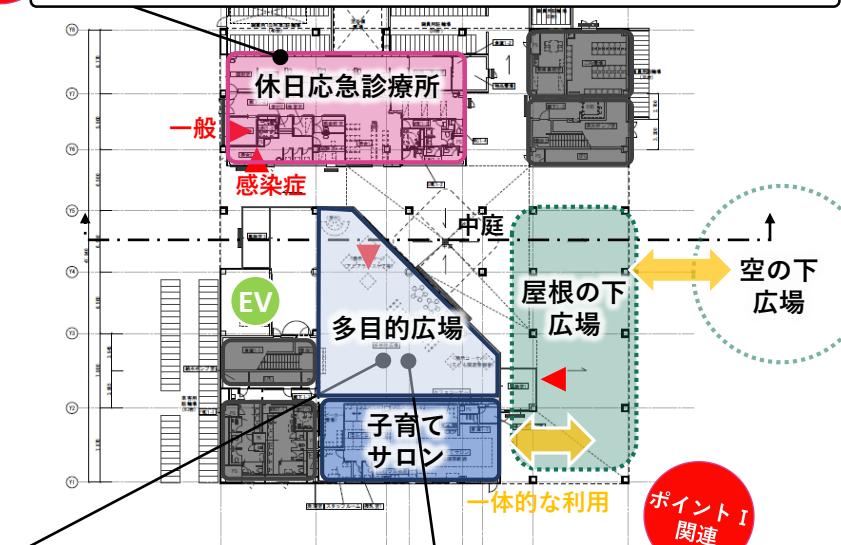


断面イメージ

## 1階 休日応急診療所、子育てサロン

**6**

- 一般患者と感染症が疑われる患者の診察室や動線をわける
- 感染症診療室は陰圧管理、クリーンパーテーションを導入し、非常時の対応を強化する



**7**

- 非常時には、全国から届く救援物資置き場として活用

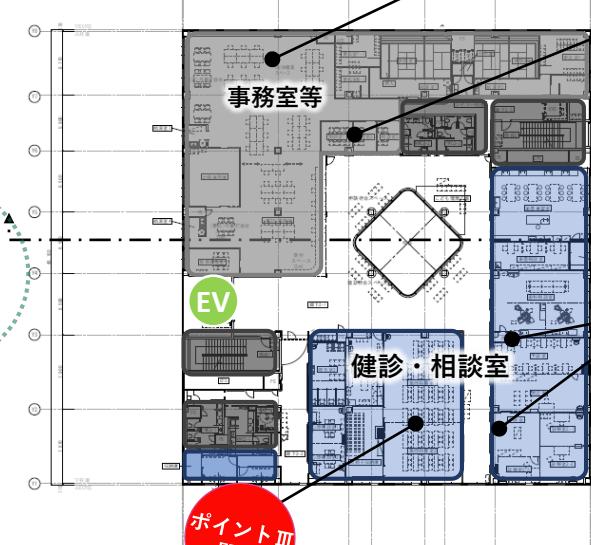
**8**

- いつでも利用できる健康チェック機器で、自分の身体の様子に気づける場所
- 幅広い世代の居場所づくりに活用

## 2階 江北保健センター

**9**

- 非常時は、DHEAT\*の拠点として、会議や作業スペースに活用



**9**

- 非常時は、DHEAT\*の拠点として、会議や作業スペースに活用

## 3階 医療・介護連携拠点

**10**

- 事務室レイアウトにフリーアドレスを導入

**11**

- 個別相談に対応する個室を設置

**12**

- 医療・介護の関係機関の事務室をまとめて、連携を強化

**13**

- 可動間仕切りでフレキシブルに活用することで、栄養教室、歯ブラシ教室など実践的・体験的な講座拡大が可能な設え

**14**

- 非常時は、乳幼児・妊産婦など配慮が必要な区民が緊急避難できるスペースとして活用



**15**

- 300席程度の大研修室は、医療・介護に係る多職種の研修等に活用
- 可動間仕切りで小空間に区分可能

DHEAT\*…災害時健康危機管理支援チーム